

文・写真 酒井 和子(堺自然観察会)

里山のフィールドで調査・観察をしていて一番面白く思うのはため池とその周辺である。雑木林に囲まれた「山池」は生物多様性に富んでいて、土手の半自然草地を含めてレッドリスト種が多々見られ、堺市でも取って置きのホットスポットとなっている。『大阪の自然、こだわりの200』(1993年発行)に挙げた通りトンボ類を含めた水生生物などが多種多様。メダカの「マンモス校」、ニホンアカガエルの卵塊のひしめき、アオダイショウの長〜い抜け殻…。保全協会の講座生にはセンブリを齧って貰い、その名の由来を味わってもらったこともある。博物館へスズサイコのDNAを提供。「モニタリング1000」でも調査。毎冬堺自然観察会では地主さんの了解を得て在来種やツツジ類を保護するため、土手の草刈作業を実施している。ところがである。非常に残念なことにため池にヨシが大繁殖して陸地化が進み、池の内外の生き物が危機に瀕している。公有地化がなされ、「里山ビオトープ」として保全保護されることを切に望んでいる。



全面に水面が広がっているため池(2006年)



ヨシが全面、覆っているため池(2020年)

③④ ミミズバイを見ることができる春日神社社叢 (和泉市三林町)

文・写真 麻生 泉(植物研究家)

泉州地域北部の堺市および和泉市の山麓・丘陵地一帯では、胸高直径が70cmを超える複数のツブラジイ(コジイ)の巨木が含まれる照葉樹林(常緑広葉樹林)の分布は限られています。数少ない中でも、和泉市三林町に分布する春日神社(池田春日神社)社叢と三林古墳群とが一体となっている面積約3.5haの広さを有する照葉樹林があります。この照葉樹林は植物群落最上層の高木層にツブラジイの巨木が優占し、胸高直径が90cmを超えるツブラジイが生育していることと、暖地性のミミズバイが林内に多く生育していることが特徴です。高木層で最も優占しているツブラジイの他に、亜高木層を含めてクスノキ、アラカシ、サカキ、ヤマモモ、モッコクなどが交じっていて、優占するツブラジイが開花する5月は、通常は深い緑色の林冠が、明るい黄白色に輝いているように見え、遠方から眺めると黄白色の林冠がもくもくと盛り上がって見えます。この照葉樹林はカナメモチ、ナナメノキ、シャシャンボなどが出現することから、植生学的にはコジイ-カナメモチ群集に分類・同定できます。また、林内ではタヌキのため糞場を見ることができます。



林冠はツブラジイが優占する春日神社社叢(6月)、クスノキも左側の林冠に見えている



近畿地方西側での分布が北限に近いミミズバイ(ハイノキ科)